



棟梁集

文部

五

五

子部下

2
4772
3



秋 2
3

かよきみしにのりて
あまのこころの
あまのこころの

遠見花

かろしらはは
くちりののりて
いさよゆま
いさよゆま

昭和四年三月
高田早苗氏贈

長
吉

棟梁集文部

高田與清稿

隅田定保が稿のるれ記

只森定行ゆいせこ牛は
て五世のゆれみよま
うしきまことゆれま
してききゆのゆれゆ
くれまがゆのゆれま
ゆれまがゆのゆれま
ゆれまがゆのゆれま

きしと改て河内とまじりし事
ゆるしと改て河内とまじりし事
ゆるしと改て河内とまじりし事
ゆるしと改て河内とまじりし事
ゆるしと改て河内とまじりし事
ゆるしと改て河内とまじりし事
ゆるしと改て河内とまじりし事
ゆるしと改て河内とまじりし事
ゆるしと改て河内とまじりし事
ゆるしと改て河内とまじりし事

りかんと改て河内とまじりし事
ゆるしと改て河内とまじりし事
ゆるしと改て河内とまじりし事
ゆるしと改て河内とまじりし事
ゆるしと改て河内とまじりし事
ゆるしと改て河内とまじりし事
ゆるしと改て河内とまじりし事
ゆるしと改て河内とまじりし事
ゆるしと改て河内とまじりし事
ゆるしと改て河内とまじりし事

北条時頼の櫻堂の記

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

のまよふ心さへ

のまよふ

よきよきとぞ思ふ心さへ
よきよきとぞ思ふ心さへ

梅酒

梅酒の味はさうさうと
梅酒の味はさうさうと

梅酒

梅酒の味はさうさうと
梅酒の味はさうさうと

梅酒の味はさうさうと
梅酒の味はさうさうと

梅酒

梅酒の味はさうさうと
梅酒の味はさうさうと

梅酒

梅酒の味はさうさうと
梅酒の味はさうさうと

梅酒の味はさうさうと
梅酒の味はさうさうと

わづらひ

のりもあはれすあはれすあはれすあはれす

あはれすあはれすあはれすあはれす

七言五言

翠柳軒記

あはれすあはれすあはれすあはれすあはれす

あはれすあはれすあはれすあはれすあはれす

あはれすあはれすあはれすあはれすあはれす

あはれすあはれすあはれすあはれすあはれす

あはれすあはれすあはれすあはれすあはれす

あはれすあはれすあはれすあはれすあはれす

あはれすあはれすあはれすあはれすあはれす

あはれすあはれすあはれすあはれすあはれす

あはれすあはれすあはれすあはれすあはれす

あはれすあはれすあはれすあはれすあはれす

あはれすあはれすあはれすあはれすあはれす

あはれすあはれすあはれすあはれすあはれす

あはれすあはれすあはれすあはれすあはれす

あはれすあはれすあはれすあはれすあはれす

あはれすあはれすあはれすあはれすあはれす

あはれすあはれすあはれすあはれすあはれす

翠柳軒記

村陰秋

片の影をく村の影をえらむのたのしみは
ひしと九の影をたのしみ

暮の側をたのしみ

あまの影をたのしみ

あまの影をたのしみ

あまの影をたのしみ

あまの影をたのしみ

あまの影をたのしみ

あまの影をたのしみ

秋

あまの影をたのしみ

あまの影をたのしみ

あまの影をたのしみ

あまの影をたのしみ

秋

あまの影をたのしみ

あまの影をたのしみ

あまの影をたのしみ

林野の也きおびちりていひかき
さづりて子あるかきさうかき
あつていひかきさうかき
さづりていひかきさうかき
さづりていひかきさうかき
さづりていひかきさうかき
さづりていひかきさうかき
さづりていひかきさうかき
さづりていひかきさうかき
さづりていひかきさうかき

あつていひかきさうかき
あつていひかきさうかき
あつていひかきさうかき
あつていひかきさうかき
あつていひかきさうかき
あつていひかきさうかき
あつていひかきさうかき
あつていひかきさうかき
あつていひかきさうかき
あつていひかきさうかき

夏懐古

あつていひかきさうかき
あつていひかきさうかき
あつていひかきさうかき
あつていひかきさうかき
あつていひかきさうかき
あつていひかきさうかき
あつていひかきさうかき
あつていひかきさうかき
あつていひかきさうかき
あつていひかきさうかき

山寺鐘

さきさきふゆのうらみのいそは 園やにのうらみ
よふ山もあはれをさすけり

山居落花

山居の人さすけり落花のうらみ
御みのうらみ

たふさくは 精せいのうらみ

さきさきふゆのうらみのいそは

ま

昔のうらみ

山打のうらみ 若菜のうらみ
ゆきさくは 花のうらみ

晩夏節公

みささきふゆのうらみのいそは
うらみ

水みづ

水みづのうらみ 山居のうらみ
山居のうらみ

夏月浮水

はくはくあはれみ人よらして
しつふな水の月歌
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして

あはれみ人よらして
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして

夏田家

あはれみ人よらして
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして
あはれみ人よらして

秋露如玉

付力 杉久 新の 杉久 杉久 杉久 杉久
新の 杉久 杉久 杉久 杉久 杉久

杉久 杉久 杉久 杉久 杉久 杉久
杉久 杉久 杉久 杉久 杉久 杉久

杉久 杉久

杉久 杉久 杉久 杉久 杉久 杉久

杉久 杉久 杉久 杉久 杉久 杉久

杉久 杉久 杉久 杉久 杉久 杉久

杉久 杉久 杉久 杉久 杉久 杉久

杉久 杉久 杉久 杉久 杉久 杉久

杉久 杉久 杉久 杉久 杉久 杉久

杉久 杉久 杉久 杉久 杉久 杉久

杉久 杉久 杉久 杉久 杉久 杉久

杉久 杉久 杉久 杉久 杉久 杉久

杉久 杉久 杉久 杉久 杉久 杉久

杉久 杉久 杉久 杉久 杉久 杉久

秋

三日月

三日月

華頂法親なる存は紙の如く

しその圓はすゝみ紙よりはかばか

うしとあまのこころはくさくさしては

かまのちぢくすぢり

おぢい法親を御持はせし

ころはれはあてあまの御新八

んをの御持はせしあまの御新八

わくしあまの御持はせしあまの御新八

いさやかりあまの御持はせし

あまの御持はせしあまの御新八

~~~~~

あまの御持はせしあまの御新八

あまの御持はせしあまの御新八

~~~~~

あまの御持はせしあまの御新八

あまの御持はせしあまの御新八

~~~~~

あまの御持はせしあまの御新八

あまの御持はせしあまの御新八

月華草

三日月

Handwritten notes in red ink at the top of the right page.

Handwritten text in black ink on the right page, including the word "MARCH" written vertically.

Handwritten text in black ink on the right page, including the word "MARCH" written vertically.

Handwritten text in black ink on the right page, including the word "MARCH" written vertically.

Handwritten text in black ink on the right page, including the word "MARCH" written vertically.

Handwritten text in black ink on the left page, including the word "MARCH" written vertically.

Handwritten text in black ink on the left page, including the word "MARCH" written vertically.

Handwritten text in black ink on the left page, including the word "MARCH" written vertically.

Handwritten text in black ink on the left page, including the word "MARCH" written vertically.

Handwritten text in black ink on the left page, including the word "MARCH" written vertically.

Handwritten text in black ink on the left page, including the word "MARCH" written vertically.





華夷通語の御覧に申すを

とらふにあらざるを

しるす

くみよれば代は

きよめりて

あはれんはの國の

てあはれんは

同文の字

おのれは

おのれは

月

おのれは

おのれは

おのれは

おのれは

おのれは

おのれは

おのれは

おのれは

おのれは

おくら... 月

月

あふ... 月

佐... 月

あ... 月

あ... 月

あ... 月

あ... 月

あ... 月

あ... 月

あ... 月

あ... 月

あ... 月

あ... 月

あ... 月

あ... 月

あつたはこころのちかき  
のちかきまはるのちかき  
のちかきまはるのちかき  
のちかきまはるのちかき  
のちかきまはるのちかき

草花湯

あつたはこころのちかき  
のちかきまはるのちかき  
のちかきまはるのちかき  
のちかきまはるのちかき  
のちかきまはるのちかき

新編 雑歌

あつたはこころのちかき  
のちかきまはるのちかき  
のちかきまはるのちかき  
のちかきまはるのちかき  
のちかきまはるのちかき

あつたはこころのちかき

あつたはこころのちかき  
のちかきまはるのちかき  
のちかきまはるのちかき  
のちかきまはるのちかき  
のちかきまはるのちかき

あつたはこころのちかき

あつたはこころのちかき  
のちかきまはるのちかき  
のちかきまはるのちかき  
のちかきまはるのちかき  
のちかきまはるのちかき

あつたはこころのちかき

あつたはこころのちかき  
のちかきまはるのちかき  
のちかきまはるのちかき  
のちかきまはるのちかき  
のちかきまはるのちかき

あつたはこころのちかき

あつたはこころのちかき  
のちかきまはるのちかき  
のちかきまはるのちかき  
のちかきまはるのちかき  
のちかきまはるのちかき

和歌集の巻の目録

和歌集の巻の目録

和歌集の巻の目録

和歌集の巻の目録

和歌集

和歌集の巻の目録

和歌集の巻の目録

和歌集の巻の目録

和歌集の巻の目録

和歌集の巻の目録

和歌集の巻の目録

和歌集の巻の目録

和歌集の巻の目録

和歌集の巻の目録

和歌集の巻の目録

和歌集の巻の目録

和歌集の巻の目録

和歌集の巻の目録

和歌集の巻の目録

和歌集の巻の目録

和歌集の巻の目録



まぐさうしんあみまうしんらうびん  
しんあみまうしんらうびん  
まぐさうしんあみまうしんらうびん  
まぐさうしんあみまうしんらうびん  
まぐさうしんあみまうしんらうびん  
まぐさうしんあみまうしんらうびん  
まぐさうしんあみまうしんらうびん  
まぐさうしんあみまうしんらうびん  
まぐさうしんあみまうしんらうびん  
まぐさうしんあみまうしんらうびん

まぐさうしんあみまうしんらうびん  
まぐさうしんあみまうしんらうびん  
まぐさうしんあみまうしんらうびん  
まぐさうしんあみまうしんらうびん  
まぐさうしんあみまうしんらうびん  
まぐさうしんあみまうしんらうびん  
まぐさうしんあみまうしんらうびん  
まぐさうしんあみまうしんらうびん  
まぐさうしんあみまうしんらうびん  
まぐさうしんあみまうしんらうびん





夜に寝るに 村のまわり

新編 曰

そのあつたつたの 見たりは ちかひなく  
あつたつたの 見たりは

新編 曰

あつたつたの 見たりは ちかひなく  
あつたつたの 見たりは

月夜に

物まゝにおくは 似たりは ちかひなく  
あつたつたの 見たりは

あつたつたの 見たりは

あつたつたの 見たりは

あつたつたの 見たりは

新編

あつたつたの 見たりは

あつたつたの 見たりは

あつたつたの 見たりは

あつたつたの 見たりは

ふんくわんじのりたてふんくわんじのりたて

景秋

ふんくわんじのりたてふんくわんじのりたて

ふんくわんじのりたてふんくわんじのりたて

ふんくわんじのりたてふんくわんじのりたて

ふんくわんじのりたて

ふんくわんじのりたてふんくわんじのりたて

景秋

ふんくわんじのりたてふんくわんじのりたて

ふんくわんじのりたてふんくわんじのりたて

ふんくわんじのりたてふんくわんじのりたて

ふんくわんじのりたてふんくわんじのりたて

いづれもよきものぞ

いづれもよきものぞ

いづれもよきものぞ

いづれ

いづれもよきものぞ

いづれもよきものぞ

いづれもよきものぞ

いづれもよきものぞ

いづれもよきものぞ

いづれもよきものぞ

いづれもよきものぞ

いづれもよきものぞ

いづれもよきものぞ

いづれもよきものぞ

いづれもよきものぞ

いづれもよきものぞ

いづれもよきものぞ

いづれもよきものぞ

いづれもよきものぞ

いづれもよきものぞ

いづれもよきものぞ

初めはあつたかきかき  
中島の  
地にはあつたかきかき  
天のあつた

巾着にあつた

あつたかきかき  
あつたかきかき

あつたかきかき

あつたかきかき  
あつたかきかき

五

あつたかきかき

あつたかきかき

あつたかきかき

あつたかきかき

あつたかきかき

あつたかきかき

あつたかきかき

あつたかきかき

あつたかきかき

あつたかきかき

あつたかきかき



或時の事

楊柳

此の事は一々記すに及ばず  
此の事一々記すに及ばず

語口五

此の事一々記すに及ばず  
此の事一々記すに及ばず

隔五

此の事一々記すに及ばず  
此の事一々記すに及ばず

楊柳

此の事一々記すに及ばず  
此の事一々記すに及ばず

楊柳

此の事一々記すに及ばず  
此の事一々記すに及ばず

迷憶

此の事一々記すに及ばず  
此の事一々記すに及ばず

此の事一々記すに及ばず

使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone)

使 (Gegewoone)

使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone)

使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone)

使 (Gegewoone)

使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone)

使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone)

後世

使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone)

使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone)

使 (Gegewoone)

使 (Gegewoone)

使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone)

使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone)

使 (Gegewoone)

使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone)

使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone)

使 (Gegewoone)

使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone) 使 (Gegewoone)

おのれは〜のふ

そと

氏らぬまうにじしとて方朽てか  
うまうさるちさくはう

カ

かたにあらぬあまきなるかた  
きり〜  
あまきなるあまきなる

あまきなるあまきなる  
あまきなるあまきなる

あまきなるあまきなる

白

あまきなるあまきなる

あまきなるあまきなる

あまきなるあまきなる

あまきなるあまきなる

あまきなる

あまきなるあまきなる

あまきなる



あつたはるはるの人のあつたはるはる  
あつたはるはるのあつたはるはる

あつた

あつたはるはるのあつたはるはる  
あつたはるはるのあつたはるはる

あつた

あつたはるはるのあつたはるはる  
あつたはるはるのあつたはるはる

あつた

あつたはるはるのあつたはるはる  
あつたはるはるのあつたはるはる

あつたはるはるのあつたはるはる

あつた

あつたはるはるのあつたはるはる  
あつたはるはるのあつたはるはる

あつたはるはるのあつたはるはる

あつたはるはるのあつたはるはる

あつたはるはるのあつたはるはる

あつた

あつたはるはるのあつたはるはる  
あつたはるはるのあつたはるはる

あつた

あつた



又中興句のふりあはる  
あふは年ふの屋にあはる人あ  
あふは年ふの屋にあはる人あ

古き

あふは年ふの屋にあはる人あ  
あふは年ふの屋にあはる人あ

一書中興句

あふは年ふの屋にあはる人あ  
あふは年ふの屋にあはる人あ

あふは年ふの屋にあはる人あ

あふは年ふの屋にあはる人あ  
あふは年ふの屋にあはる人あ

旅泊月

あふは年ふの屋にあはる人あ  
あふは年ふの屋にあはる人あ

あふは年ふの屋にあはる人あ  
あふは年ふの屋にあはる人あ



二のあまもり

君のあまもり

白雲軒

雨もあまもり

ひらけの也

着る来

白雲のあまもり

あまもり

あまもり

君のあまもり

あまもり

あまもり

あまもり

あまもり

あまもり

あまもり

あまもり

あまもり

あまもり

あまもり

あまもり

うらつるまゝしよとくふりてあやれ  
さやのうらつるまゝしよとくふりて

田舎に東来 兼行

かたがは一本の梅のうらつるまゝの  
わがうらつるまゝの枝

梅を童用 左梅

書はなほうらつるまゝのうらつるまゝ  
くま。くま。くま。くま。くま。くま。

水 くま

わがうらつるまゝのうらつるまゝ

のうらつるまゝのうらつるまゝ

水 くま

わがうらつるまゝのうらつるまゝ  
わがうらつるまゝのうらつるまゝ

わがうらつるまゝのうらつるまゝ

わがうらつるまゝ

老

わがうらつるまゝのうらつるまゝ

わがうらつるまゝのうらつるまゝ

わが

うらつるまゝ  
うらつるまゝ  
うらつるまゝ  
うらつるまゝ

むら せんせふとあはれいし  
うらなひ ちかきあはれいし

古友

人よあはれいしとあはれいし  
あうなぬきあはれいし

あひ

あひのあはれいしとあはれいし  
あひのあはれいしとあはれいし

あひのあはれいし

あひのあはれいしとあはれいし

あひのあはれいしとあはれいし

あひのあはれいし

あひのあはれいしとあはれいし

あひのあはれいし

あひのあはれいしとあはれいし

あひのあはれいしとあはれいし

あひのあはれいしとあはれいし

あひのあはれいし

あ

あはれなる心はなほあはれなる心  
あはれなる心はなほあはれなる心

あはれなる心はなほあはれなる心  
あはれなる心はなほあはれなる心

あはれなる心はなほあはれなる心  
あはれなる心はなほあはれなる心

あはれなる心はなほあはれなる心  
あはれなる心はなほあはれなる心

あはれなる心はなほあはれなる心  
あはれなる心はなほあはれなる心

あはれなる心はなほあはれなる心  
あはれなる心はなほあはれなる心

あはれなる心はなほあはれなる心  
あはれなる心はなほあはれなる心

あはれなる心はなほあはれなる心  
あはれなる心はなほあはれなる心

あはれなる心はなほあはれなる心  
あはれなる心はなほあはれなる心

あはれなる心はなほあはれなる心  
あはれなる心はなほあはれなる心





焼くはるのりまをく

くはるのりまをく

くはるのりまをく

三行

くはるのりまをく

くはるのりまをく

くはるのりまをく

くはるのりまをく

抄れ

くはるのりまをく

くはるのりまをく

くはるのりまをく

くはるのりまをく

三行

くはるのりまをく

くはるのりまをく

抄れ

くはるのりまをく

くはるのりまをく

抄れ



うめよのこころ

あはれ

あはれをいかにいかにして

あはれをいかにいかにして

あはれをいかにいかにして

あはれをいかにいかにして

あはれをいかにいかにして

見よ

あはれをいかにいかにして

あはれをいかにいかにして

見よ

あはれをいかにいかにして

あはれをいかにいかにして

あはれをいかにいかにして

あはれをいかにいかにして

梅

あはれをいかにいかにして

あはれをいかにいかにして

あはれをいかにいかにして

あはれをいかにいかにして

~~あはれをいかにいかにして~~

あはれをいかにいかにして

事... 物...

物... 物...

物... 物...

物... 物...

物... 物...

物

物... 物...

物... 物...

物... 物...

物

物... 物...

物... 物...

物

物... 物...

物... 物...

物

物... 物...

物... 物...

物

こころの世のぬくの物にしをこそ  
きこらるゝ人の家

物類中

あはれなくもあはれなくも  
あはれなくもあはれなくも

芳詞

あはれなくもあはれなくも  
あはれなくもあはれなくも

飯

あはれなくもあはれなくも  
あはれなくもあはれなくも

あはれなくもあはれなくも  
あはれなくもあはれなくも

品

あはれなくもあはれなくも  
あはれなくもあはれなくも

恋涙

あはれなくもあはれなくも  
あはれなくもあはれなくも

木

あはれなくもあはれなくも  
あはれなくもあはれなくも







新編神の歌

花のまにまにさかすまの  
うらやまのまのまの

花下まじり

まのまのまのまのまの  
まのまのまのまのまの

花のまじり

花のまじり  
花のまじり  
花のまじり

花のまじり

花のまじり  
花のまじり  
花のまじり

花のまじり  
花のまじり  
花のまじり

花のまじり

花のまじり  
花のまじり  
花のまじり

花のまじり

花のまじり  
花のまじり  
花のまじり

花のまじり  
花のまじり  
花のまじり

